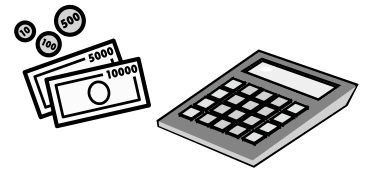


平成22年度決算 財務諸表を公表

財政課財政係 ☎(63)2151

平成22年度普通会計決算に基づく、市民1人当たりの貸借対照表等の財務諸表についてお知らせします。

※「普通会計」とは、本市の場合、一般会計と見笹霊園事業費特別会計を合わせたものです。



貸借対照表

道路や学校などの建物、預金等の資産が、どのような収入で賄われているかを表示しています。

【市民1人当たり】

資産・財産 175万6千円	将来の負担
道路や土地などの資産 165万6千円	借入金等 39万7千円
現金や預金等 10万円	これまでの負担
	国・県からの補助金や市税等 135万9千円

現在の道路などの公共資産に対する将来の負担が約2割程度(市民1人当たり39万7千円)残っています。将来の負担軽減のために、借入金の抑制や売却可能な資産の処分などを進めていきます。

行政コスト計算書

1年間、社会福祉や教育、ごみ収集などの行政サービスに係った経費と、保育料の支払いやごみ袋の購入など直接対価として支払った収入を対比して表示しています。【市民1人当たり】

1年間、教育や社会福祉などの行政サービスにかかった費用 33万3千円	受けたサービスに対して市民が支払った使用料や負担金など 1万7千円 不足する分30万8千円は… 市税や国・県からの補助金、その他の収入で賄っています。
---------------------------------------	--

不足する分は、市税(市民1人当たり14万円)や地方交付税、各種交付金等の一般財源で賄われますが、それでも不足する分については、資産(基金等)の取崩し等で賄っています。

純資産変動計算書

資産形成に要したこれまでの負担分が、1年間でどのように変動したかを表示しています。【市民1人当たり】

前年度末の純資産		
(道路や建物の建設などの資産形成のために負担した税金や国県からの助成金)		
合計 135万2千円		
公共資産等に充てた 国県補助金 31万7千円	公共資産等に充てた 市税等 120万6千円	その他 資産形成に負担した市税等 △17万1千円
↓ 7千円の増加		
当年度末純資産		
合計 135万9千円		
公共資産等に充てた 国県補助金 31万5千円	公共資産等に充てた 市税等 120万9千円	その他 資産形成に負担した市税等 △16万5千円

道路の建設事業などの公共資産等に投入した国・県補助金等の依存財源が減少、市税等の自主財源が増加しました。純資産全体では平成21年度末から7千円増加しました。

資金収支計算書

1年間の支出を3つの性質に区分し、それに対応する財源を収入として表示しています。【市民1人当たり】

経常的収支の部	
【支出】 人件費、生活保護費や児童手当などの社会保障給付費、補助金等	24万9千円
【収入】 市税、地方交付税、使用料手数料、臨時財政対策債等	32万4千円
経常的収支額 7万5千円…A	
公共資産整備収支の部	
【支出】 道路や学校施設等の建設費	5万8千円
【収入】 国・県補助金や建設のための借入金	3万5千円
公共資産整備収支額 △2万3千円…B	
投資・財務的収支の部	
【支出】 借入金の返済や貸付金など	8万円
【収入】 貸付金の回収など	2万9千円
投資・財務的収支額 △5万1千円…C	
1年間の収支額 (A+B+C)	1,000円
期首の現金残高	10,953円
期末の現金残高	12,187円

道路などの公共資産整備に要する費用や、借入金の返済などの約5割を経常的収支の黒字分(市税、交付税等)で負担しています。